

漢陽大学校(2024年度夏期)

踏み出す勇気で得たものは

政策情報学部 寺坂穂乃佳

この夏、海外語学研修に参加して自分自身と向き合える良い経験になったと心の底から感じた。私は、研修に行くにあたり韓国語を学びたいという目的があった。この海外語学研修では、語学の学び以外に現地の方との交流、生活などから様々な学びを得ることができた。

一番成長することができた場所は、韓国語の授業だ。そのように感じさせてくれたのは、先生とクラスメイトの存在が大きい。まず、私達のクラスの先生はすごく熱心に韓国語を教えてくださいました。私は、日本語を使わない授業と聞き最初は不安だった。しかし、登校初日に先生は私たちにやさしい笑顔で挨拶をしてくださいました。そのおかげで、不安がなくなり目の前のものに取り組む勇気が一層強くなった。クラスメイトは、だれ一人授業を休むことなく最終試験まで迎えることができた。最初から最後まで意欲が高く、授業への参加度が高いクラスだったからこそ自分も一生懸命授業に取り組むことができた。先生や韓国人の学生の方とは、韓国語と英語でコミュニケーションをとっていた。そのおかげで日本語に頼らずに授業に取り組み先生や友達と会話をすることができた。日本にいるときは、韓国語だけではなく英語を使うことにも羞恥心があった。だが、このような環境に身を置くことでやらなければいけないと自分自身を奮い立たせることができた。また、どうすれば自分の気持ちを人に伝えられるかを考え、言葉だけでなく表情やジェスチャーを使うことの大切さを感じた。自分が韓国語を話せなくても、うれしいことは表情で伝わる。いやなことは、ジェスチャーでも伝えることができる。十分な文法や単語力は私にはないが、コミュニケーションに必要なのは語学力がすべてではないということに気づくことができた。

実際に現地での生活をしてみて感じたのは、飲食店、交通、トイレが日本とは違うなと思った。まず、飲食店ではスプーンや箸、ティッシュが机の引き出しにしまわれていた。これは、日本の飲食店ではあまり見かけないので衛生面的に良いと感じた。キャベツや漬物、キムチなどのおかずがセルフサービス、料理の量が多いことに驚いた。これは、お客さんとしてはうれしいことだが残している方も多く、フードロスだと感じた。もちろん日本でも残す人はいるが、SDGsの目標達成に取り組む日本と比較して韓国は対策を行っているのか気になったので調べて見たいと感じた。次に、駅では駅員さんがいない場合が多く都会にもかかわらず防犯性が薄いと感じた。その反面、防犯カメラが至る所にありそれで賄っているのだと思った。地下鉄に乗って感じたのは、優先席と妊婦さん用の席が多いということと座席の素材がステンレスであることだ。優先席や妊婦さんへの配慮が感じられ、優先席にはいくら空いていても若者は座らないというのが目に見えて感じられ上下関係を大切にする文化の心遣いを感じられた。ステンレス製であることに疑問をもって韓国人の友達に聞いたところ、昔に起きた放火事件での悲しい結末からの教訓によるものであった。クッション性がある日本の座席とは違うが、安全に配慮した良い対策だと思った。どの移動手段においても値段が安価だと感じたが、バスやタクシーはスピードが速かったり、停車してから発進までのスピードが速かったりした。「パリパリ文化」、「速さが重視」と呼ばれる韓国文化であると感じた。そして、一番日本と違うと感じたのはトイレだ。トイレは、駅や寄宿舍では流すことができたが、私が行った飲食店の多くは使用済みのトイレットペーパーをごみ箱に捨てるよ

うに促していた。昔に比べて流して良いという飲食店も増えているようだが、日本との生活スタイルの違いに戸惑った。

8月15日は、光復節という韓国の祝日であった。そのため、デモや現地の方に対し少し不安があった。しかし、そんな心配も必要なかったくらい多くの方がいつも通りの日常を過ごしていて、他の日とは変わらず楽しい一日を過ごすことができた。日本にいる時は、ニュースでデモが起きている部分や過激なところが切り取られて放送されることが多い。だから、そのような面においてネガティブなイメージがついているように感じる。実際に現地生活をしてみて、日本語を話せる方が多かったり、困っていたら手伝ってくれる人がいたり、人の温かみを感じた。語学研修をする前と後では、イメージが変わりもっと韓国を好きになった。

海外語学研修を通して、語学の学びの他に多くのことを学ぶことができた。日本にいただけでは、変わらなかったイメージや出会えなかった人。すべて縁だと感じた。全部思い出になり、忘れることはないだろう。日本にいても韓国でできた友達との交流を続けていきたい。将来、自分は番組制作に携わりたいと考えている。そして、韓国をテーマにした番組やドラマを作りたいのでこの三週間は、自分の夢への前進となった。韓国語を実際に大学に行き学べたこと、現地での生活を送れたことなどすべてが自分の夢への糧になると感じられた。もし、このようなプログラムに参加することに踏み出せない人がいるならばぜひ一歩踏み出して参加してほしいと思う。

